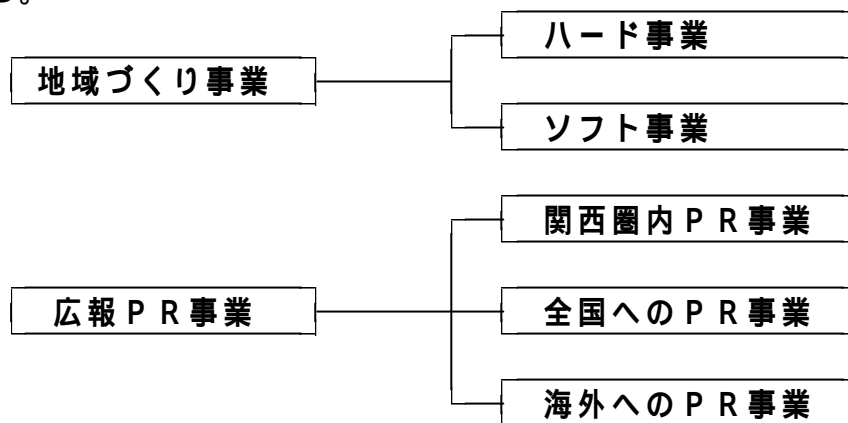


第 章 「歴史街道」計画の進捗状況

歴史街道推進協議会の事業を大きく「地域づくり事業」と「広報PR事業」に分け、更に「地域づくり事業」についてはそれを「ハード」と「ソフト」の事業に。「広報PR事業」については、大きく対象別に関西圏、全国、海外に分類して、計画の現状を記述する。



1. 地域づくり事業

地域づくりのハード面では第三期の期間内に、17市町村において、新しく「歴史街道モデル事業」計画が策定された。

歴史街道モデル事業（第三期計画期間中の事業策定地区）地区と主な事業

市町村名	主な事業
北丹後地区	日本海岸保全事業、鳴き砂博物館整備構想、古墳公園整備、碓高原公園整備、八丁浜シーサイドパーク整備、スイス村リフレッシュ整備、丹後王国の道づくり、アメニティク美兵整備事業、かふと山園地整備事業 等
丹波町	近隣公園（仮称：須知公園）の整備、須知城跡整備、ポケットパーク、橋古広場等整備、まちなみ案内板の設置 等
阪南市	山中溪の街並み整備事業、玉田山公園（古墳群）整備事業、第二阪和国道周辺整備（延伸）事業、iセンター整備事業、向出遺跡保全・活用事業、国道26号歩道修景事業、海浜空間新緑道路事業 等
御津町	国道250号歩道整備事業、室津漁業集落環境整備事業、公衆トイレ改修事業、道の駅・iセンター構想事業、室山城跡の整備事業、新舞子揖保川線新設整備、龍野揖保川御津南北連絡道路整備 等
生野町	総合案内所の整備、銀山まち回廊の整備、銀山参道の整備、旧コワニ工邸の復元、トロッコ路の散策路整備、大水路の復元、近代化遺産博物館（歴史テーマパーク）の整備 等
中町	東山古墳群整備事業、エコミュージアムビジターセンター構想、ふるさとの玄関整備事業、サイン（道路案内・施設案内）整備 等
柏原町	JR柏原駅周辺整備、歴史遊歩道の整備、史跡（柏原藩陣屋跡）内及び史跡周辺の環境整備、国道176号道路改良・道路修景事業、河川環境整備、休憩所・トイレ等の整備 等
西熊野街道周辺地区	大塔村郷土館整備事業、観音峯南朝文化ゾーン整備事業、天川村入村口整備事業、鶴姫公園整備事業、（仮）十津川温泉周辺地区整備事業、地域高規格道路五條新宮道路(国道168号)事業 等
高麗町	道標・誘導サインの設置、歩道の整備（石畳化）広域交通アクセス看板の設置、外国語案内板の設置、電線類の地中化、京奈和自動車道整備事業 等
那智勝静町	大門坂入口部町道景観整備、サイン整備、那智駅道の駅整備事業、ゆかし湯歩道設置事業、熊野古道整備事業 等

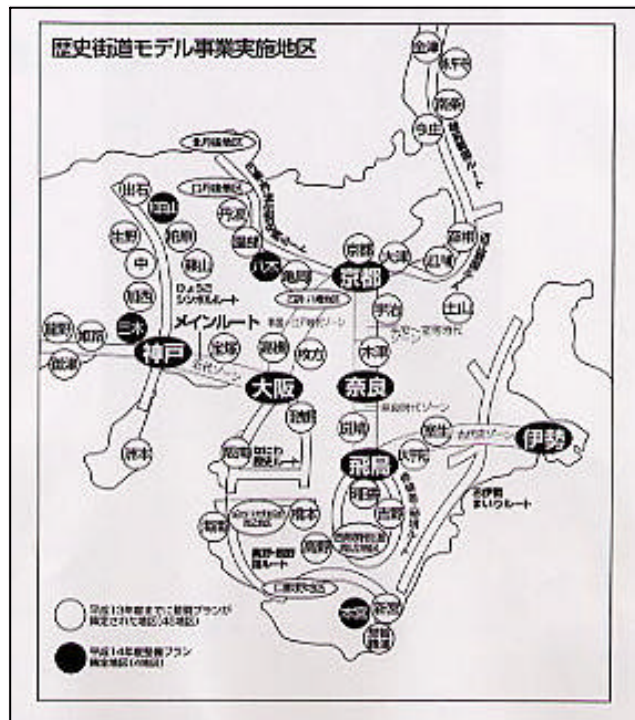
計画策定にあたっては、各地区での「旅モニター」事業や、住民参加によるワークショップを開催し、参加者からの意見やアイデアを活用する形で計画策定がおこなわれている。



モデル事業プラン策定の流れ

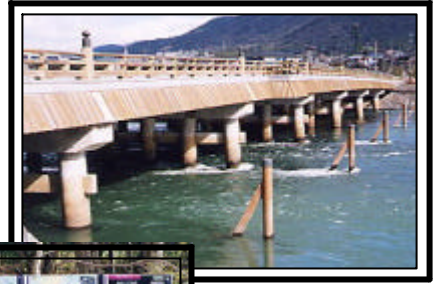
住民参加によるワークショップ風景

「モデル事業」計画を策定した地区は、本年度分を含めると49地区、70市町村であり、すでにほぼ100%事業が完了したという地域もでてきている。





斑鳩町
(太子道道路標識)



(宇治橋)



宇治市 (案内表示板)



京都市 (ねねの道)



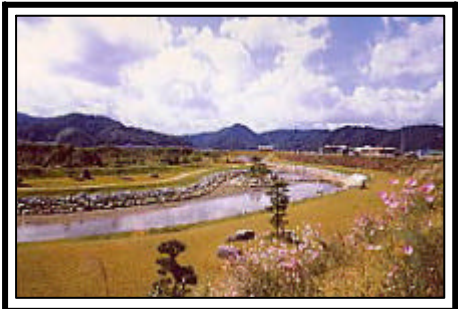
大津市 (坂本駅前整備)



彦根市 (夢京橋キャッスルロード)



篠山市 (大書院)



出石町 (河川整備)



橋本市 (道標整備)



羽曳野市 (竹内街道)

一方、第三期計画に掲げられた「点から線への展開」については「伊勢～飛鳥間」「飛鳥～京都間」「京都～大阪間」での連携研究会を開催するなどの動きがあったが、いずれも軌道に乗っているとは言い難い現状にある。

一般道における「推奨道路」づくり、高規格道路の整備、古道、旧街道、河川の再活用、鉄道における「移動空間の演出」といった各方面での提案がなされているものの、昨今の経済状況悪化に伴い、停滞の感は否めなかった。



山の辺の道・桜井市



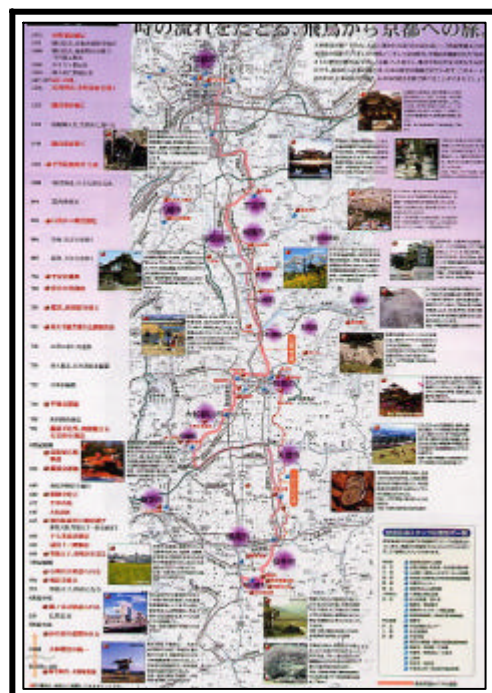
宇治市



奈良インター



ポケットパーク・木津



「飛鳥～奈良～京都」パンフレット

他方、ハード面の事業に先行する形で展開された、様々なソフト事業の分野においては、第三期計画の期間内で一定の方向性が打ち出せた。

特に重点をおいたのは「モデルツアー」の実施であり、「飛鳥～奈良～京都」間では2001年度に計15種類のコース開発が行われ、2002年度にはシリーズ性を持ったイベントとして「六都再見スタディーツアー」なども実施された。

歴史街道「六都再見 スタディーツアー」

第1回	飛鳥京 ～和歌の流れ～	奈良県明日香村周辺	10月6日(日)
第2回	藤原京 ～伎楽から能へ～	奈良県橿原市周辺	11月24日(日)
第3回	平城京 ～京をつくった建築技術～	奈良県奈良市周辺	12月8日(日)
第4回	恭仁京 ～風水からたどる古代の都～	京都府加茂町周辺	1月24日(金)
第5回	長岡京 ～遷都の謎をたどる～	京都府向日市周辺	2月8日(土)
第6回	平安京 ～古代都と信仰の力～	京都府京都市周辺	3月11日(火)

ルートを意識した新しい試みとしては、町家や歴史的な建物を活用した店舗のネットワークが2001年度からスタートした。

同じく2002年度からは、飛鳥～奈良～京都間でおこなわれていた「歴史街道観光ボランティアガイド定点案内」がメインルート全域に拡大した。



「町家」紹介パンフレット



観光ボランティアガイド定点案内パンフレット

全体的な受け入れ体制整備の面では、従来からの継続事業であるシンボルマーク入り案内板の整備、ウエルカム表示、スタンプラリーなどの市町村共同事業、歴史街道iセンターなどに加え、2002年度からは「外国人割引店舗」のネットワークづくり、宿泊施設のネットワークづくりがスタートした。

現在の所、ウエルカム表示の掲出駅は83駅、スタンプ設置は81箇所、歴史街道iセンターは、道の駅に設置されたものを合計し、40箇所となっている。

歴史街道 i センター

地域	名称
伊勢	おかげ横丁総合案内所 伊勢市観光案内所
室生	道の駅"宇陀路 室生"
大宇陀	道の駅"宇陀路 大宇陀"
榛原	榛原町ふれiギャラリー
桜井	桜井観光案内所
飛鳥	国営飛鳥歴史公園館
橿原	橿原観光物産センター
斑鳩	法隆寺iセンター
天理	天理市トレイルセンター
奈良	奈良市観光センター なら奈良館
宇治	宇治市観光センター
京都	京都文化博物館
大山崎	大山崎ふるさとギャラリー
大坂	インフォメーションギャラリー 近鉄資料室
宝塚	宝塚市総合観光案内所
神戸	神戸市北野観光案内所
龍野	本竜野駅前観光案内所
大淀	道の駅"吉野路大淀iセンター"
かつらぎ	川上酒かつらぎ文化伝承館
那智勝浦	那智駅交流センター(丹敷の湯)
姫路	まちづくりステーション
八幡	松花堂美術館iセンター
加悦	旧加悦鉄道加悦駅舎

歴史街道 道の駅 i センター

地域	名称
福井	河野
滋賀	あいの土山
滋賀	しんあさひ風車村
京都	和
京都	ガレリアかめおか
兵庫	八千北
兵庫	みき
兵庫	播磨いちのみや
兵庫	村岡ファームガーデン
兵庫	但馬楽座
奈良	ふたかみパーク當麻
奈良	針T・R・S
和歌山	イブ・クワント・すさみ
和歌山	紀の川万葉の里



スタンプラリーリーフレット



外国人割引店舗の認証ステッカー



ウエルカム表示

地域づくりに関し、第三期計画に記載された「参加と連携」の推進についても、概ね順調に推移した。



イベントの実施



海外 歴史探訪ツアー

< 歴史街道倶楽部の活動 >



機関誌の発行



< 大学生からの提案活動事業 >



A T C

< 物産倶楽部・出展 P R >



福井 (サウド-ム福井)



近鉄百貨店

歴史街道倶楽部については現在約 6,000 人、物産倶楽部に加盟している事業者は 100 社余り。

シンクタンク機能の強化については大きな進捗はなく、調査研究が年間数本という実績であった。

2. 広報PR事業

次に「広報PR事業」である。

第三期計画における事業方向は「ハイタッチでシャープな広報」「大観光時代への対応」であった。

関西圏向け、全国向け、海外向けの発信を視野に入れたものの3つに分類して記述する。

まず、関西圏内への情報発信で最も大きな影響力を持っているのが、朝日放送で放映されている「歴史街道～ロマンへの扉～」である。

年間260回の番組放映が行われており、放映回数は近く2300回を迎えるが、2002年の4月から放映時間に変更(月～金：18:54～19:00)になったこともあり、新しい視聴者層へのアプローチに、いくつかの工夫が加えられている。

「歴史街道～ロマンへの扉～」放映実績 2002年度(4月～3月)

4/1～4/5	「歴史街道とは」	9/16～9/20	名張
4/8～4/12	歴史街道：伊勢	9/23～9/27	多賀、永源寺
4/15～4/19	〃：飛鳥	9/30～10/4	姫路
4/22～4/26	〃：奈良	10/7～10/11	飛鳥京
4/29～5/3	〃：奈良	10/14～10/18	興福寺
5/6～5/10	〃：宇治・京都	10/21～10/25	大阪城
5/13～5/17	〃：京都	10/28～11/1	神戸
5/20～5/24	〃：大阪	11/4～11/8	藤原京
5/27～5/31	〃：大阪・宝塚	11/11～11/15	きぬかけの路
6/3～6/7	〃：神戸	11/18～11/22	岸和田
6/10～6/14	吉野	11/25～11/29	永源寺、多賀
6/17～6/21	堺	12/2～12/6	平城京
6/24～6/28	豊岡・出石	12/9～12/13	高槻
7/1～7/5	近江八幡	12/16～12/20	篠山
7/8～7/12	瀬峡～本宮	12/23～12/27	(大阪の味)
7/15～7/19	天神さん	1/6～1/10	平安京
7/22～7/26	勝山	1/13～1/17	御利益めぐり
7/29～8/2	楽劇の祭典	1/20～1/24	伊丹～西宮
8/5～8/9	奈良市南部	1/27～1/31	福井
8/12～8/16	丹後	2/3～2/7	長岡京
8/19～8/23	高野山へ	2/10～2/14	淡路・洲本
8/26～8/30	近つ飛鳥	2/17～2/21	長浜(益梅)
9/2～9/6	三千院	2/24～2/28	大阪
9/9～9/13	神戸はじめて物語	3/3～3/7	加茂～柳生



番組撮影風景



番組タイトル

2000年度(4月～3月)

4/3～4/7	京の庭
4/10～4/14	京の技
4/17～4/21	京の味
4/24～4/28	京の華
5/1～5/5	和歌山へ
5/8～5/12	湖北へ
5/15～5/19	奈良・西の京
5/22～5/26	飛鳥
5/29～6/2	甲賀
6/5～6/9	神戸の異国
6/12～6/16	吉野
6/19～6/23	妙心寺
6/26～6/30	大阪の古代
7/3～7/7	志摩の島
7/10～7/14	小浜
7/17～7/21	京の涼
7/24～7/28	西播磨
7/31～8/4	甲子園界限
8/7～8/11	奈良の夏
8/14～8/18	琵琶湖の夏
8/21～8/25	大阪のミュージアム
8/28～9/1	柏原、春日
9/4～9/8	大阪城[難波戦記より]
9/11～9/15	六甲から摩耶山
9/18～9/22	伊賀[まちかど博物館]
9/25～9/29	京の山
10/2～10/6	修験道・役行者
10/9～10/13	京の文化
10/16～10/20	室生
10/23～10/27	生野、和田山
10/30～11/3	神戸(阪神)の音楽
11/6～11/10	近江戦国ルート
11/13～11/17	高野・龍神
11/20～11/24	天理、桜井
11/27～12/1	丸岡周辺
12/4～12/8	湯の峰
12/11～12/15	湯の山
12/18～12/22	湯の花
12/25～12/29	大阪の20世紀
1/1～1/5	伊勢(天の岩戸)
1/8～1/12	京都・世界遺産
1/15～1/19	奈良・世界遺産
1/22～1/26	姫路、法隆寺
1/29～2/2	但馬の鍋
2/5～2/9	京の匠
2/12～2/15	神戸
2/18～2/22	南部周辺(梅林)
2/25～3/1	長浜
3/4～3/8	飛鳥
3/11～3/15	橋本
3/18～3/22	四天王寺周辺
3/25～3/29	舞鶴

2001年度(4月～3月)

4/2～4/6	春の若草山
4/9～4/13	大阪・桜島周辺
4/16～4/20	那智勝浦
4/23～4/27	京都・奈良
4/30～5/4	京都の通り
5/7～5/11	今井町(檀原市)
5/14～5/18	大阪・船場
5/21～5/25	神戸(都市計画)
5/28～6/1	上野
6/4～6/8	飛鳥・南大阪
6/11～6/15	滋賀・京都
6/18～6/22	韓国
6/25～6/29	韓国
7/2～7/6	枚方(鍵屋)
7/9～7/13	宿場町・淀川と街道
7/16～7/20	洲本(淡路)
7/23～7/27	京都国立博物館
7/30～8/3	今庄
8/6～8/10	薬師寺
8/13～8/17	大津・琵琶湖畔
8/20～8/24	相国寺
8/27～8/31	今庄
9/3～9/7	大阪の水の観光
9/10～9/14	和歌山
9/17～9/21	京都・東福寺
9/24～9/28	関・鈴鹿(東海道)
10/1～10/5	大阪・天六、天七、天八
10/8～10/12	興福寺
10/15～10/19	中町・西脇
10/22～10/26	秋の奈良
10/29～11/2	大阪城
11/5～11/9	東大阪
11/12～11/16	東山
11/19～11/23	阪神間のミュージアム
11/26～11/30	桜井
12/3～12/7	源氏物語(京都)
12/10～12/14	朽木～高島
12/17～12/21	池田の猪買い
12/24～12/27	年末の梵鐘(京都)
1/7～1/11	初詣(名物ほか)
1/14～1/18	花の下影(大阪)
1/21～1/25	相生・龍野
1/28～2/1	那智勝浦・紀三井寺
2/4～2/8	彦根城
2/11～2/15	名松線
2/18～2/22	奈良国立博物館
2/26～3/1	大津(三井、石井、正井)
3/4～3/8	小浜(お水送り)
3/11～3/15	環状線の旅
3/18～3/22	飛鳥(万葉)
3/25～3/29	京都

各鉄道会社や関係団体と連携した広報活動も展開している。



道の駅マップ



ドライブウィー連携PRパンフレット



近鉄・京阪・阪急沿線PR誌

展示PR
(阪急梅田駅)



スルッとKANSAI情報誌



あいビジョンおおさか(JR大阪駅)



中吊り広告

(阪急、近鉄、京阪との連携事業)

このほか、協議会の主催事業として、大阪・京都・奈良などで年間数回の関連シンポジウムを開催している。地域づくりをテーマにしたもののほか、大学の研究者との連携や他地域との歴史比較をテーマにしたものなど、この間、いくつかの新しいバリエーションが加わった。

「地域づくりシンポジウム実施一覧」

2000年度

開催日	開催地	名称
8. 7	関町	鈴鹿峠シンポジウム
10. 9	桜井市	歴史街道フォーラム「古代史を彩った女帝」
11. 25	枚方市	淀川舟運シンポジウム
3. 7	大阪市	歴史街道推進協議会発足10周年記念フォーラム「未来へつなく、歴史街道」
3. 25	大津市	シンポジウム「信長の夢、戦国の夢」
3. 27	京都市	観光学シリーズ「京への道～旅人のまなざし」

2001年度

開催日	開催地	名称
10. 7	橿原市	歴史街道シンポジウム「いにしへの道と現代の道 - 太子道をゆく」
11. 7	大阪市	土木の日シンポジウム
1. 15	京都市	観光学シリーズ「広がりゆく観光学の世界」
1. 30	大阪市	歴史街道モデル事業 市町村サミット「物語のあるまちづくり」
2. 22	東京	歴史街道フォーラム「歴史街道計画10年のあゆみと京都から奈良への旅」

2002年度

開催日	開催地	名称
10. 19	奈良市	歴史街道シンポジウム「古代の東北と畿内」
10. 22	大阪市	歴史街道モデル事業 市町村サミット「文化遺産を結ぶ歴史街道の新たな発信」

次に全国に向けてのPRについては、重点項目として、東京駅展示、メディアや旅行会社対象のシンポジウム、マスコミ訪問やプレスツアー、産経新聞紙上におけるプレゼント企画などをおこなってきた。

が、膨大な情報量と予算的制約の中、大きな壁に直面している。

東京駅でのアンケート（平成14年2月実施分）によると、歴史街道計画について聞いたことがあるという人はまだ55%であった。



< 東京駅における展示PR >



< プレスツアーの実施 >



新幹線車内誌

「ひととき」



月刊「歴史街道」



産経新聞・全国版

産経新聞
掲載箇所

	掲載日	提供先
1	10月13日	志摩観光ホテル
2	10月20日	奈良ホテル
3	10月27日	ホテルグランヴィア京都
4	11月3日	都ホテル大阪
5	11月10日	神戸ベイシェatonホテル& Towers
6	11月17日	ホテルグランヴィア和歌山
7	11月24日	三宮ターミナルホテル
8	12月1日	歴史街道推進協議会
9	12月8日	松山酒造場
10	12月15日	片山金蔵商店
11	12月22日	灘商事
12	12月29日	多幸梅観光 日本料理多幸梅
13	1月12日	ホテルグランヴィア大阪
14	1月19日	京都新阪急ホテル
15	1月26日	六甲山ホテル
16	2月2日	グリーンホテルYES長浜
17	2月9日	みかへりや
18	2月16日	神戸ポートピアホテル
19	2月23日	渡月亭
20	3月2日	ホテル志摩スペイン村
21	3月9日	ホテル近鉄ユニバーサル シティ

これら以外にも、堺屋太一理事による単行本発行、各自治体や鉄道会社の東京事務所との連携プレーなどについて模索しているが、手数が絶対的に不足しているという現実は否めない。

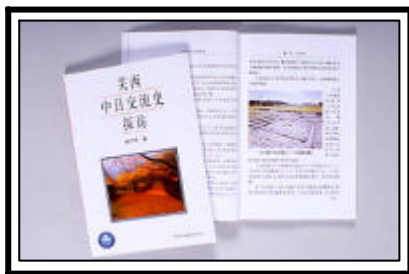
最後に海外対策であるが、阪神淡路大震災以降、関西国際空港への直行便を持つ海外主要都市で実施してきた「海外フォーラム」(計43回)など一連の事業が、第三期計画より新局面に入った。

関西における海外への情報発信事業全体を、関西広域連携協議会が韓国、台湾、香港、当協議会が欧米と中国本土を中心にという業務分担を行う中、まず2001年度には日本の広報団体としていち早く北京に連絡所を開設。

イベント出展やラジオ番組の放送(87回)、ガイドブックの製作やメディアの受け入れなどを開始した。



<取材協力：旅行家>



<中国語ガイドブック>



<北京での展示PR>

2001年度にはWTO世界観光会議の受け入れに多くのエネルギーを投入。参加者へのツアー運営、英語ガイドブックの配布、主要ホテルの客室内における番組放映、展示活動などを行った。



<WTO開催時におけるツアーの実施>



<英文ガイドブック>

過去の4千人程度の「海外フォーラム」参加者に対するフォローアップに加え、2002年度からは、小規模な形での海外訪問を中心とした事業展開を開始した。事業実施はニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シカゴ、パリ、ミラノ、フランクフルト、北京、バンコクの計9都市であった。

「海外PR実施都市一覧」

2000年度

開催日	開催場所
11.16	シンガポール
11.20	ホーチミン(ベトナム)
11.29	香港

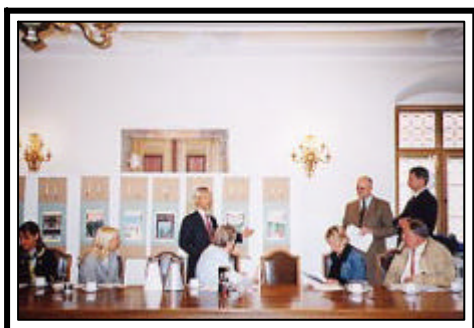
2001年度

開催日	開催場所
3.9	ウボンラチャターニー(タイ)

2002年度

開催日	開催場所
4.29	ローテンブルク
5.3	フュッセン
9.11	バンコク
9.16	ウボンラチャターニー(タイ)
9.20	ダナン(ベトナム)
11.12	サンフランシスコ
11.14	シカゴ
11.19	ニューヨーク
11.21	ロサンゼルス
11.11	ミラノ
11.13	パリ

他団体が主催



歴史街道二十一景を活用したプレゼンテーション



海外との交流事業



広域団体と連携した海外フォーラム

また、同年実施のサッカー・ワールドカップに照準をあわせ、10言語によるホームページの大幅改訂、「歴史街道二十一景」シリーズの製作、前出の「町家店舗」や「外国人割引店舗」のネットワークづくりなどの事業をスタートさせた。

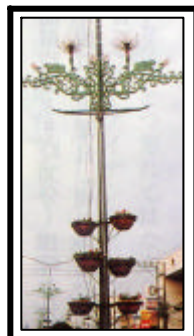


歴史街道HP (<http://www.rekishikaido.gr.jp>)

その他、海外交流の分野では、ドイツ・ロマンチック街道との交流や、歴史街道倶楽部による中国・韓国・タイ・カンボジア訪問、朝日放送番組による日韓交流史放映、ベトナム、ウズベキスタンなどへのノウハウ協力についても行っている。



事例勉強会「ドイツロマンチック街道」



海外との事業交流

<タイウボンラチャタニ州・花ハスロード>



<ウズベキスタンとの交流>

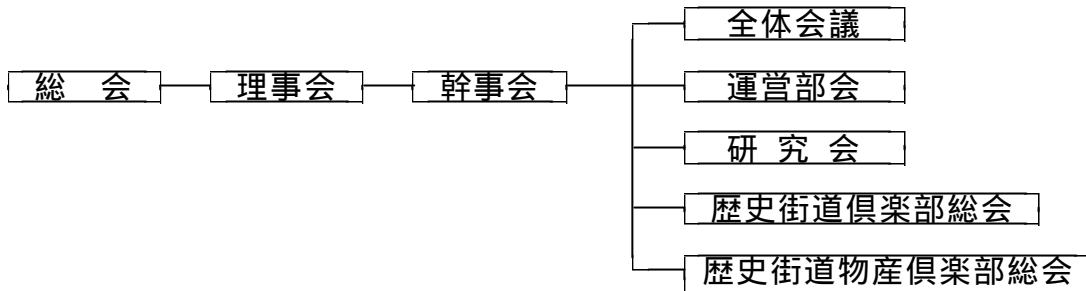


<歴史街道倶楽部カンボジア訪問>

3 . 協議会運営等

以上のような活動の根底をなすのが協議会運営であるが、現状の協議会の組織図ならびに事務局体制は下図のようになっている。

総会・理事会・幹事会、運営部会、全体会議、研究会などの公式会合は、年間25回程度である。



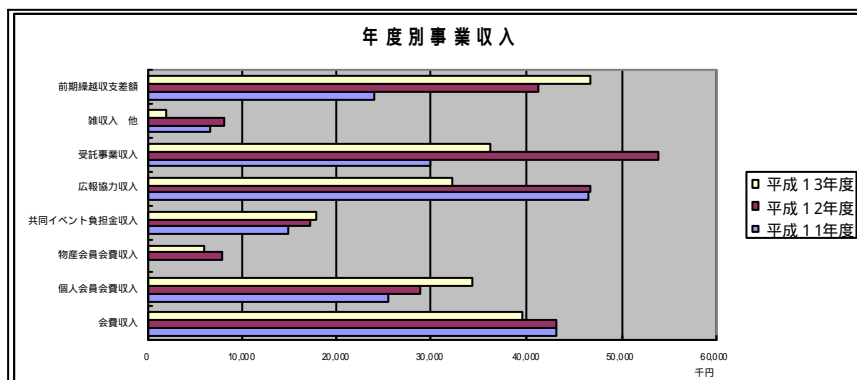
毎年夏と冬には国への要望活動も実施している。

<参考 平成14年度冬要望事項>

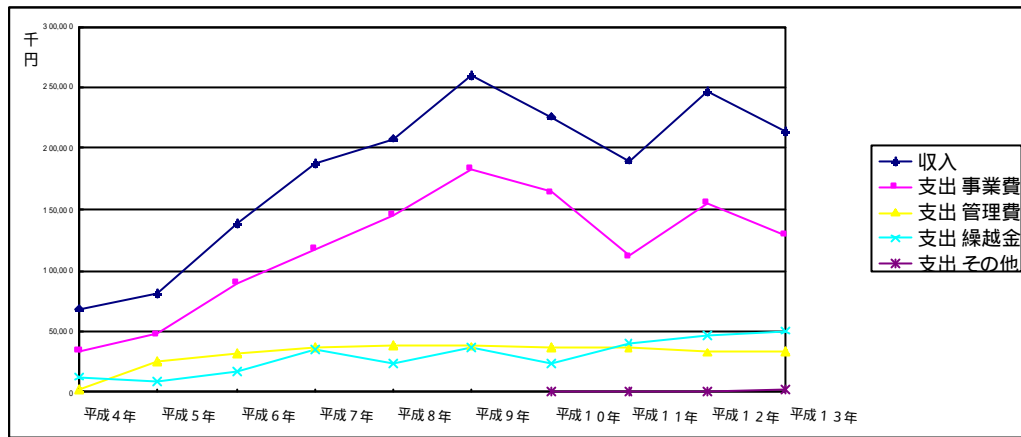
項 目	要 望 先
1 美しい日本を創るために	
「歴史街道モデル事業」への支援拡充	国土交通省
「歴史文化道路」「歴史文化河川」の整備	国土交通省
「伝統的建造物群保存地区」への支援内容の充実	文部科学省・文化庁・国土交通省
国営明石海峡公園、飛鳥歴史公園の整備	国土交通省
2 国をあげての文化・観光振興	
平城宮跡第一次大極殿院復原等、関西における文化財関連予算の拡充	文部科学省・文化庁
観光予算の拡充と地方運輸局の強化	国土交通省
省庁の垣根を越えた文化・観光の振興	国土交通省・文部科学省・文化庁・農林水産省・総務省・郵政事業庁
地域の広域連携への支援策拡充	総務省・国土交通省

年間予算の推移、事業分類、および事務局の体制は以下の通りである。

最近の経済情勢化にあっては、比較的順調に推進している部類に入るか、参画団体からの会費収入、受託事業、広報協力金などの収入等の減少傾向にあることは否めない現状である。



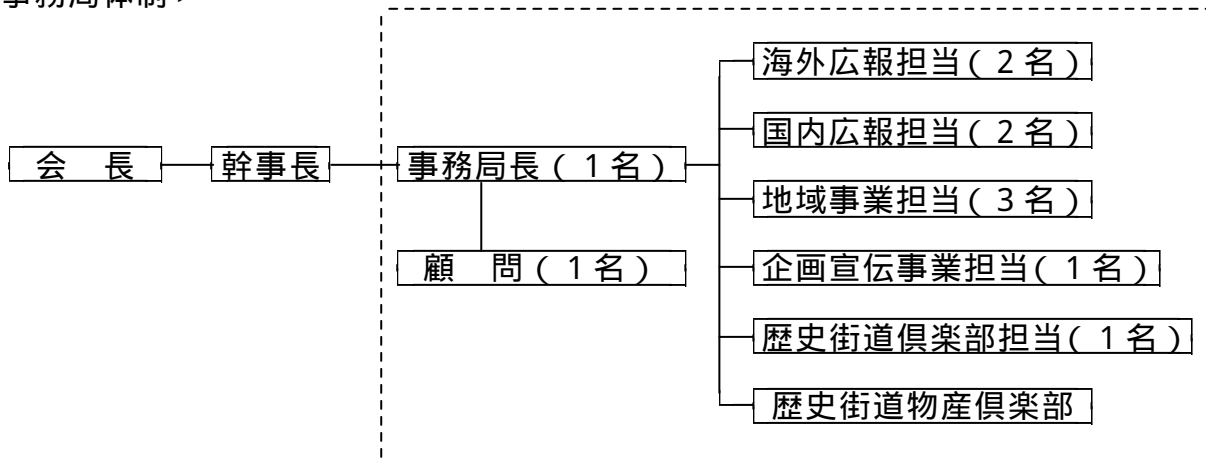
< 協議会予算（収入・支出額の推移） >



< 事業分類 >

- ①：協議会としての基礎的な事業（会合開催、基礎広報等）
行政会費 + 民間会費を1：1で活用 + 繰越金
会議開催・協議会パンフレット・HP・4カ国語パンフレット
ウェルカムガイド・ノベルティ
- ②：企業会員の「共同メセナ」として推進していく事業
（海外広報等） 民間会費
海外フォーラム・マスメディア受け入れ・国際会議対策
- ③：各団体の出捐目的に応じて活用（共同イベント負担金、
広報協力金、受託事業費、個人会員会費、物産会員会費）
地域連携事業・歴史街道倶楽部・市町村共同事業・物産倶楽部
歴史街道グッズ・東京駅展示

< 事務局体制 >



4. 第三期までの事業評価

計画策定に先立ち、まず、第三期計画に記された各種事業に対する、推進レベルにおける評価は以下の通りである。

< 事業推進に対する評価 >

○ : 順調に推移 △ : 概ねうまく推進されている ● : 着手済 × : 未着手
 × : 事業実施断念

1. 「点」から「線」への事業推進

	事業項目	活動概要	評価
1	歴史街道モデル事業	国土交通省(近畿地方整備局)と共同で推進する整備事業。歴史文化資源を活かし、ハード整備から各種イベント等のソフト事業による地域づくりを実施している。モデル事業地区は49地区(70市町村)	
2	「ルート」としての整備推進	「伊勢～飛鳥」、「飛鳥～奈良～京都」、「京都～大阪」で官民からなる地域連携チームを発足させ、活動 「飛鳥～奈良～京都」での連携事業の実施 地元観光ボランティアガイドと連携し、メインルート上で定点案内を実施。(秋・冬:伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神間の拠点)	
3	モデルツアーの実施	歴史街道の見所を選んで、年間12コース程度のモデルツアーを実施し、各方面にコース提案	

2. 「参加」と「連携」

	事業項目	活動概要	評価
1	市民参加の促進	地域づくりへの市民参加を促進するため11地域で旅モニター事業および、地元住民や来訪者によるワークショップを実施し、事業提案インターネットによる市民参加型のまちの魅力紹介の実施	
2	まちづくりノウハウの交流とシンクタンク機能の強化	歴史街道計画の推進にあたり助言や提案等を行う有識者による「ブレインチーム」の結成。 主に官公庁からの委託を受け、年間数件の調査研究事業を実施。	
3	歴史街道倶楽部	歴史街道計画を応援する市民約6000名と法人とからなる会員組織を運営	

3. ネットワーク事業の充実

	事業項目	活動概要	評価
1	案内システムの充実	歴史街道シンボルマーク入り案内板を200基程度設置。 歴史街道センター(26箇所)、道の駅・歴史街道センター(11箇所)、ホテルにおける案内コーナー(23箇所)で、来訪者へ情報を提供 外国人観光客を歓迎するウェルカム表示を、JR西日本、近鉄、阪急、京阪、阪神、JR東海の駅等55箇所に設置	
2	多様な共同事業の展開	市町村共同事業の実施:約80箇所に市町村の歴史にまつわる図柄の歴史街道スタンプを設置。例年8月～5月にスタンプラリーを実施し、年間完走者7,000名程度。 3私鉄(近鉄、京阪、阪急)とのポスター相互貼付、展示PRなどの共同PR事業の実施 スロットとKANSAとの連携事業の実施	

3	物産振興	地場産業の振興を目的とした物産業者の倶楽部組織を運営している。約100事業者が加盟し、ホームページ「感彩市場」で地域産品を紹介するほか、各地の物産展での出展PRを実施。歴史街道の共同事業参加市町村の地域PRと地域物産のPRをおこなう「歴史街道ふるさと小包」を実施	
---	------	---	--

・ハイタッチでシャープな広報

	事業項目	活動概要	評価
1	国内への広報PR	公認ガイドブック「歴史街道を行く」など10冊程度を出版 月刊「歴史街道」の発行部数は、16万部/月。 東京駅における展示PRの実施(1回/年) マスコミに対して年間1.6回程度歴史街道関連の情報を提供。 「のぼり」の作成と関連箇所への設置促進 各種歴史街道関連パンフレットを年間50万部作成	
2	TV番組ソフトなどの活用	放映回数は約2000回。	
3	インターネット事業の拡充	2000年12月31日からインターネット博覧会に出展。2001年3月からは言語数を10に拡大、2002年6月リニューアル。	

・「大観光時代」到来への対応

	事業項目	活動概要	評価
1	海外フォーラム等	海外のメディア、旅行業関係者を対象にフォーラムを実施 WTO等の国際会議参加者を対象としたPR活動の実施 海外フォーラム参加者約4000名を対象に歴史街道の情報を適宜発信 海外の雑誌等に歴史街道関連記事を提供し、60回程度掲載 北京放送でラジオ番組を87回放送した。累計聴取者は、8000万人程度。 英語版・中国語版ガイドブックをそれぞれ現地にて出版、販売	
2	東アジア対策	北京連絡所を設置。情報収集を中心に、マスメディアの受け入れや展示PRなどを実施	
3	外国人受け入れ体制の強化	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館などで4カ国語(英・中・韓・日)のオーディオガイドを導入。 曾根崎通の3箇所(英・中・韓・日)の音声案内板を設置 外国人観光客への受け入れサービス向上のため、割引特典のある店舗を約150店舗ネットワーク化 四カ国語パンフレットの作成と配布	

次に各事業に関する会員団体からの事業評価を試みた。

「非常に意義がある」「意義がある」と回答があった事業<ベスト20>は以下のものであった。

<>内は意義がある、非常に意義があると答えた%

歴史街道モデル事業	< 95 >	
歴史街道関連の整備事業	< 93 >	
広域案内・他地域案内・多言語案内	< 93 >	
テレビ番組の放映	< 92 >	
国内向けの出版事業	インターネット事業	< 91 >
パンフレット作成事業	< 90 >	
歴史街道倶楽部	ニュースリリース	< 89 >
歴史街道関連のイベント事業	< 87 >	
歴史街道シンボルマークの認知度向上	< 85 >	
モデルツアー	案内表示板の設置	< 84 >
ボランティアによる観光案内	ウォーキングマスター	< 83 >
歴史街道スタンプ設置	< 83 >	
外国語版ガイドブック等の出版事業	要望活動	< 81 >
海外広報協力(新聞・雑誌)	海外広報協力(テレビ)	
ウェルカム表示	博物館音声案内	< 80 >

<>内は「どちらとも言えない」「あまり意義がない」「意義がない」と答えた%が多かった事業は以下の通りであった

外国人割引店舗のネットワーク	東京駅等での展示PR	< 36 >
屋外音声説明板	< 35 >	
各種の調査研究事業	< 34 >	
歴史街道物産倶楽部	< 31 >	
各種のシンポジウム事業	< 30 >	
ビデオ作成	< 29 >	
ブレンチーム	< 28 >	
多言語案内表示	外国人ツアーへの協力	留学生モニターツアー
海外との共同事業	海外への協力活動	< 25 >

ただし、「非常に意義がある」「意義がある」との回答を「支持率」と見た場合、その数値が50%を切っている事業は0件であった。

5 . 歴史街道計画推進に不足していたもの

次に、50名の「ブレーン」の方々から「歴史街道」計画への「批判を含めた意見」を集約し、その中から、総論部分において出された意見につき、「過去の計画推進に不足していたもの」を、次の6点に取りまとめた。

- (1) 「原点」復帰の姿勢
- (2) わかりやすさ
- (3) 関西各地域の特性を活かした連携
- (4) 地域のニーズ、実状とのマッチング
- (5) 実践力
- (6) 現場重視の姿勢

これらの6点に関する見直しや改善を図って行くことが、この第四期計画の大きな方向性となる。

(1) 「原点」復帰の姿勢

「歴史街道」は21世紀に生きる者の責任として、「22世紀以降にこの素晴らしい国土を持つ日本を残そう」という運動であり、本来、国家プロジェクトとして評価されるべきものだ。

その意味では、「歴史街道」というネーミングが持つイメージと、実際の組みたての間には大きなギャップが存在する。

「歴史街道」計画は、単なる「関西のための地域おこしプロジェクト」ではない。

このまま原点を見失った形での活動が続けば、矮小化された世界の中でしか存続できなくなるだろう。

(2) わかりやすさ

いいものを持つ各地域が「連携」する際に難しいのは、その中に一定のテーマ性と各地域の個性が打ち出せないといけないという点だろう。

「歴史街道」の試み自体は、その方向は満たしているのだが、まだ何か足りないものがある。「歴史」というのが、観光テーマとしては大きすぎるということかも知れないし、歴史資源が「ありすぎて」よく分からないという面もある。

「わかりにくさ」に関する一番の問題は、「ルート」が複雑すぎることにある。
現在のマップを見て、「歴史街道」に行ってみたいと思う人は皆無だろう。

計画推進全般についても、行政が主体となった時に多く見られる「落とし穴」にはまってしまっている。特に各地域の「平等性」を重視する姿勢については、プロジェクトそのものとしてはよいのかも知れないが、個別の旅を提供するという面では、利用者に対し「売れない」ものにならざるを得ない。

推進している事業についても、できるだけ簡潔に説明できるような仕分けを考えていく必要がある。「3つの目標」はあくまで「推進する側」の立場に立ってのもので、外部者の理解推進にはあまり役だっていない。

(3) 関西各地域の特性を活かした連携

この間、関西が反省すべき点の一つは、いわゆる「ビッグプロジェクト」を頼りにしすぎたきらいがあったことだ。国、地方自治体や民間の財政状況からして、同様の路線が取れないことはもはや明白で、世の中も「地方のことは地方で」という流れ。日本全国をミニ東京化するのではなく、関西は関西らしく、それぞれの地方も独自性を生かし発展していくことが必要だ。

関西再生への足がかりはまず、その長所が一体どこにあるのかを再検証することである。生活環境、多面性、人材、産業やメディアの伝統、交通の便や人口の多さなど、関西にはいろんな長所があるだろう。

また、関西らしさを語る時に外せないのは、言うまでもなく、その歴史文化性や観光資源だ。

これからの時代、既存の行政枠ばかりに縛られているのはおかしい。

関西の多くの家庭では、学校、仕事、遊びなど、各人が府県をまたがって生活しているのが通常である。

また、北海道に3～4日いても見ることができるのは毎日北海道だけ。しかし、関西なら1日に2・3府県をまわることも出来る。

特に観光や文化の面では、互いにもっと連携してモノを考えなければいけない。

色々な場所がある中で、単独でディスティネーションになれる地域は、関西の場合、むしろ少数であり、最近旅も個人指向に大きく変化してきているのだから、相互交通の便利さなどの長所を、もっと活かしていくべきである。

協議会は、府県境を越える事業を積極的に展開していくべきである。

全ての府県が修学旅行からコンベンションまで、フルセットで事業に取り組むのではなく、地域間で有効に役割分担していくべきだ。

各府県の特徴を際立たせていくためには、歴史だけをアピールするのではなく、他では見られない取組、例えば環境関係の取組を取り入れて、同時に発信してもいい。

8府県をイーブンに取り扱ってきたこれまでの実績は、今までの段階では一定の意義があったが、それだけでは今後、絶対に次には進めない。

例えばある年は皆で、特定地域を重点的に売り出すということがあっていい。

(4) 地域のニーズ、実情とのマッチング

関西では、観光に依存しなくとも住民はそれなりに豊かな地域が多い。

当然のことながら、地域には地域にあった活性化の姿があっていい。

生活者主体の町では、観光客数で成果を計るのはベストの方法ではないし、どの観光地にも「適正規模」というものがある。

非日常性に欠ける観光地においては、徹底した「常在観光」への道を追及するのもよい。

歴史都市においてサステイナブル(持続可能な)コミュニティを実現していくためには、結局、地球環境にこれ以上の負荷を与えずに、歴史都市で安心、安全、安定した生活を、世代を越えて連綿と実現し続けることができるようにすることだ。特に観光や商業と住民、地域経済の関係について、その持続可能性を吟味しておくことはとても重要であろう。

協議会では、これまで実験的事業のほとんどを「飛鳥～奈良～京都」を始めとする場所で実施してきた。

しかし、圧倒的な歴史資源をもつこれらの地域を対象とした事業を、全地域に「平等に」普及することには無理もあった。

今後は、その方向をそれぞれの地域ニーズや特性に合わせたものに転換し、より多様な実験的事業が各地で展開されるようになることを理想としたい。

情報発信の面では、歴史文化的資質や地域における観光ニーズに応じて、情報発信相手別に市町村の仕分けをしていく必要がある。

例えば海外対象地域は、日本人にとって常識的な歴史の場所で、すでに多数の人が行ったことがある地域、世界一の資源を有する地域、外国人が特に興味を持ちそうな地域で、「メインルート」21拠点や、世界遺産指定地、上野、永平寺など。

首都圏対象地域は、上記以外で日本有数の資源を有する地域、全国的知名度はあるが、誘客面ではまだ全国区になっていない地域をその中心に据えるなど。長浜、彦根、安土、琵琶湖、堺、丹後、淡路ほかがこのグループで、以外の場所は関西圏対象PRに、より多くの力を入れていくということの方が、むしろ現実にはなっている。

(5) 実践力

「歴史街道」構想が提唱されて11年あまり。

計画の存在が、関西全般にかなり浸透してきているのは事実だろう。

だが、その全体像が依然としてぼやけており、分かりにくいのも現実だ。

計画の推進母体である「歴史街道推進協議会」の存在も、市民全般に理解または認知されていない厳しい状況がある。理念が先行し、具体的な事業行動が不鮮明なまま今日にいたってしまっており、そろそろ「構想」や「計画」としてではなく、「実績」や「活動」として、誰もが一目で理解できるようなものを準備していかないといけない。

歴史街道の「実動部隊」となる人々は、各地域や業界の中にいる。それらの人が「おもしろい」と思える具体的事業をそろそろ提示していかないと、この計画には「先」がない。

大がかりなことばかり考えるのではなく、具体的な事業をどんどん「やっていく」ことこそが重要だ。

(6) 現場重視の姿勢

どんな事業でも、結局は「人」に尽きる。

が、これまでの関西プロジェクトには、この視点が決定的に欠けており、結局は産業構造の転換にも乗り遅れてしまった。

そのためますます余裕がなく、目先のことを処理するのに精一杯。

「人」づくりには時間がかかるため、まさに悪循環である。

各々がどんどん新しいものをつくり、それが人を集め、育てていたりする東京とは、全く対象的なスパイラルに陥ってしまっている。

が、関西にも強みはある。

「現場」にまだ、力を持った人たちが数多く残っていることだ。

何かをやろうと思ったら、そのヒントは現場に求めるしかない。

協議会は今後もさらに現場を重視し、その力を積極的に計画推進に取り入れていくべきである。

また、これからは単なる歴史的なものだけではなく、今に生きる人々の営みや、将来の社会とのつながりについての意識も高めていく必要がある。

科学技術の進歩を積極的に活用していくことはもちろんだが、各地域における新しい試みとの積極的な連動も不可欠である。